

科目名： 企業論 担当者： 川端 望 時間：月 1 ・水 3 対象学年： 3 ・ 4

科目ナンバリングコード： EAL-ECM312

1. 授業の目的と概要

現代社会での生活にとって、企業は欠かせない存在である。この授業では、企業について経済学的に理解することを学ぶ。具体的には、日本の企業システムを対象として、これを取引費用理論（TCE）による組織の経済学によって理解するアプローチと、その問題点を考察する。このことを通して、社会人の基礎的素養としての、企業に関する冷静で自立的な分析と考察の能力を養う。

2. 学習の到達目標

- ・組織の経済学による企業の理論を学ぶ。
- ・日本の企業システムの概要を、雇用システム、企業間システム、コーポレート・ガバナンスの各々の側面から理解する。
- ・TCEによる日本企業論について、その意義と問題点を学ぶ。
- ・日本企業理解の新たなアプローチについて学ぶ。
- ・社会人の基礎的素養として、企業システムに関する冷静で自立的な分析と考察の能力を養う。

3. 各回の授業内容・方法

第 1-2 回： 1 ガイダンス（科目選択機会を保障するため同じ内容を 2 回行う）

第 3-8 回： 2 内部組織

- 2-1 組織としての企業
- 2-2 企業の本質
- 2-3 取引費用の経済学
- 2-4 取引の組織化
- 2-5 小括

第 9-13 回： 3 雇用システムの理論

- 3-1 雇用関係
- 3-2 技能形成
- 3-3 労働市場
- 3-4 小括

第 14-19 回： 4 日本企業の雇用システム

- 4-1 年功序列の問題性
- 4-2 生活給としての電産型賃金と職務給導入の挫折
- 4-3 能力主義管理と職能資格制度
- 4-4 能力主義管理の年功的運用とその外部
- 4-5 成果主義の挫折と正規・非正規問題
- 4-6 小括

第 19-22 回： 5 日本のサプライヤー・システム

- 5-1 企業間取引への注目
- 5-2 TCEによる日本のサプライヤー・システム論
- 5-3 TCEによるサプライヤー・システム論の問題点
- 5-4 サプライヤー・システム変革の動き

5-5 展望

第 23-27 回：6 日本のコーポレート・ガバナンス

6-1 株式会社制度とガバナンスの理論

6-2 日米経営者企業のガバナンス構造

6-3 アメリカにおけるガバナンス改革

6-4 日本におけるガバナンス改革

6-5 小括

第 28-29 回：7 結論と試験のポイント

第 30 回：自由質問コーナー

4. 成績評価方法

期末筆記試験：75 点→**80 点に変更**

授業中のクイズ：20 点。2 点×10 回→**中止**

学期中間のアンケート回答：5 点→**中止**

小テスト；**20 点(新設)**

発言：授業中の発言により加点する。

5. 教科書と参考書（書誌あるいは URL）

教科書はなし。全体に関わる参考書として以下を参照。

- ・宮本光晴『企業システムの経済学』新世社，2004 年。本講義は，この本を批判的に読むことで作成された。
- ・上井喜彦・野村正實編著『日本企業 理論と現実』ミネルヴァ書房，2001 年。

6. 授業時間外学習（予習・復習・課題）について

- ・講義内容について 10 回のクイズを行うので，よく復習をすること。**→中止**
- ・期末試験はよく復習しないと回答できない。

7. 使用言語

日本語

8. その他（履修の条件，連絡先，オフィスアワー，教員のウェブサイト等）

オフィスアワーは授業中に指定する。

過去の授業のレジュメ・資料等は教員ホームページにある。

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/jugyoindex.htm>

教員の連絡先は『学生便覧』に記載されている。